

フランス語の隠れたしくみ

18. 複合過去と単純過去の単純ではない関係

東郷雄二

先月はいささか乱暴にフランス語時制組織の全体像を示したので、今月はもう少しわしく見て行くことにしよう。

単純過去の開く過去スペース

もともとフランス語では過去の出来事を語るのに単純過去形 *j'aimai* を使っていた。現代フランス語では単純過去形は日常会話から姿を消し、小説・歴史・童話・弔辞などの一部の書き言葉に限って使われている。

(1) Un matin de vacances, Delphine et Marinette (a) *s'installèrent* dans le pré, derrière la ferme, avec leurs boîtes de peinture. Les boîtes (b) *étaient* toutes neuves. (c) *C'était* leur oncle Alfred qui les leur (d) *avait apportées* la veille pour récompenser Marinette d'avoir sept ans, et les petites (e) *l'avaient remercié* en lui chantant une chanson sur le printemps. L'oncle Alfred (f) *était reparti* tout heureux et tout chantonnant, mais il (g) *s'en fallait* que les parents eussent été aussi satisfaits. (M.Aymé, *Les contes du chat perché*)

「ヴァカンスのある朝のこと、デルフィーヌとマリネットは農場裏手の草原に、絵の工具箱を持って座り込みました。絵の工具箱はまっさらでした。マリネットが7歳になったお祝いに、アルフレッド伯父さんが前の日に持って来てくれたのです。おちびさんたちは春の歌を歌ってアルフレッド伯父さんにお礼をしました。アルフレッド伯父さんはすっかり喜んで鼻歌を歌いながら帰って行きましたが、デルフィーヌとマリネットの両親は喜ぶどころではありませんでした」

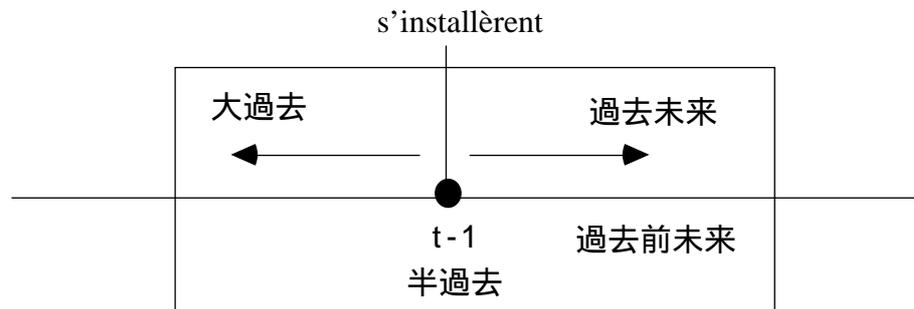
この例では単純過去 (a), 半過去 (b) (c) (g), 大過去 (d) (e) (f) が使われており、典型的な語りのモードになっている。この例をもとにして、まとまりを持った談話のなかで時制がどのように働くかを見ることにしよう。こうする理由は、時制が談話をその活動舞台とする現象であり、他から切り離され孤立した文を見ては、その働きを理解することができないからである。

まず冒頭の Un matin de vacances 「ヴァカンスのある朝に」は、必ずしも過去を表わさないことに注意しよう。未来のことだってかまわないはずだ。だから読者を過去の世界に連れて行くのは単純過去 *s'installèrent* 「座り込んだ」である。単純過去のいちばん大事な働きは「過去に起きた出来事を表わす」ことだ。単純過去は何の助けも借りずに、それだけで過去の出来事を表わすことができる唯一の時制である。

横道にそれるが、単純過去が何の助けも借りずに過去の出来事を表わすように、現在形は何の助けも借りずに今日の前で起きている出来事を表わすことができる唯一の時制である。単純過去と現在については、「何の助けも借りずに」という所が

特に大事な点だ．その他の時制が出来事を表わすには，何かの助けを借りなくてはならないのである．単純過去と現在は，「出来事の語り」という分野においては東西の横綱であり，その独立性の強さによって他の時制を圧倒している．

(1)に話を戻そう．単純過去 *s'installèrent* 「座り込んだ」によって過去（実はフィクション）の世界に連れて行かれた読者は，想像上で主人公デルフィーヌとマリネットのいる世界に入り込み，ふたりが農場裏手の草原に座り込んだ場面を頭の中に思い描く．そうなったらしめたもので，読者は作者の術中に落ちたも同然である．このとき，読者の頭の中ではふたりが座り込んだ時点（これを $t-1$ とする）を中心として，過去の世界が開かれる．この世界を「過去スペース」と呼ぶことにしよう．この過去スペースにおける時制の構成は次のようになる．



「座り込んだ」時点 ($t-1$) が，読者であるあなたが想像上で身を置いた地点である．その地点から見て，今起きていることを言い表すには半過去を，過去を振り返って前に起きたことを表わすには大過去を，それから後に起きることを表わすには過去未来（条件法現在）を使う．だから(1)で半過去の (b) *étaient* は， $t-1$ において「絵の工具箱がまっさらである」ことを表わす．また大過去の (d) *avait apportées* 「持って来た」，(e) *l'avaient remercié* 「お礼をした」，(f) *était reparti* 「帰って行った」は， $t-1$ から見て前の日に起きた出来事を表わすのである．

それでは単純過去 *s'installèrent* 「座り込んだ」は，上の図のどこに位置づけられるのだろうか．実は単純過去は上の図には入れることができない．だから枠線の外に書いてある．単純過去は出来事が起きた時点 $t-1$ を時間軸上に指定する働きを持つだけである．だから順番に書くと，「単純過去が $t-1$ を指定する」 「 $t-1$ を中心とする過去スペースが開かれる」 「半過去や大過去が使えるようになる」という順序で話が進むことになる．

文法書にはよく，「半過去は単純過去や複合過去で表わされた出来事と同時の状態や継続中の動作を表わす」と書いてある．この説明で大事なのは半過去の性質とされる「同時性」である．次のような例があげられることが多い．

(2) *Quand Marinette entra dans le salon, son père lisait le journal.*

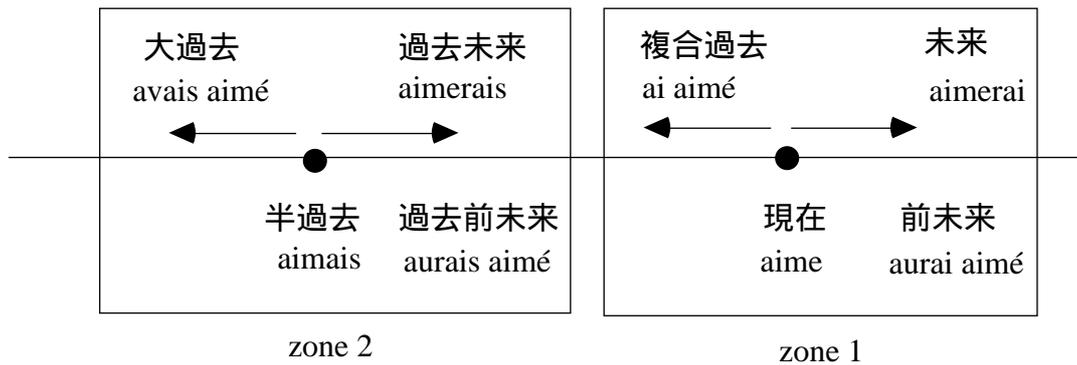
「マリネットが居間に入っていくと，お父さんは新聞を読んでいた」

しかし「半過去が同時性を表わす」というのは本末転倒である．「枯葉が舞うから

秋が来た」というのと同じだ。過去の時点 $t-1$ が指定されると、 $t-1$ を中心とする「今」を表現することができるのは、半過去をにおいて他にはないというのが正しい。話している現在 $t-0$ において今起きていることを表すには現在形しか使えないというのと同じである。半過去は「過去における現在」だからだ。

複合過去の分身の術

昔はふつうに使われていた単純過去は、今のフランス語では一部の方言を除いてはもう日常会話では使われなくなった。単純過去の代役として使われるのが複合過去である。ここで先月号で示した時制の全体像をもう一度あげておこう。



複合過去は本来、現在を中心とする zone 1 陣営の時制である。これは複合過去のもともとの意味である現在完了としての使い方に対応する。

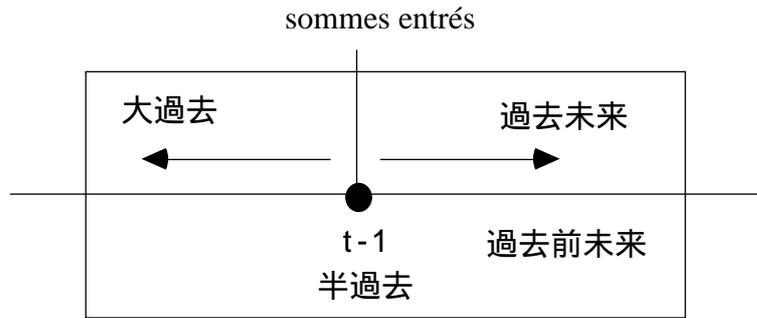
- (3) J'ai déjà dîné. 「もう夕食は済ませました」(だから今お腹は減っていない)
- (4) Maman est sortie. 「ママは出かけました」(だから今家にいない)
- (5) Je n'ai jamais été au Maroc. 「私はモロッコには行ったことがない」

(3) (4) は「済ませています」「出かけています」のように、現在形で訳してもよいくらいである。複合過去が過去の出来事を表わすとは言いながらも、この例のように現在の状態を表わすことができるのは、zone 1 に属しているため「現在の時点と地続き」だからなのだ。

しかし、単純過去が次第に使われなくなったため、複合過去はその代役を務めることになった。次のように変身したわけである。

- (6) Nous (a) sommes entrés dans la maison. Le salon (b) était vide, et toutes les autres pièces (c) l'étaient aussi. Ils (d) avaient emporté tous les meubles.

「私たちは家の中に入って行った。客間はからっぽで、その他の部屋も同じだった。家具はことごとく持ち去られてしまっていた」



ここでも複合過去(a) *sommés entrés* は図の枠線の中には入れてもらえない。単純過去がしたように、外から過去の時点 $t-1$ を指定するだけである。

先月号で「zone 1 の時制と zone 2 の時制が同時に使われることはない」と書いた。その重大な反例となるのが *Quand je suis entré dans le salon, Paul lisait le journal.* 「私が居間に入って行くと、ポールは新聞を読んでいた」のように、複合過去 (zone 1) と半過去 (zone 2) が同じ文中で使われている例であった。しかしこれが反例とならないことはもうわかりだろう。このような例では複合過去は分身の術を使って zone 1 陣営を抜けだし、単純過去の代役を務めて過去の時点を指定する働きをしているのである。

(とうごう ゆうじ)